

KEYWORD UpToDate

教科書とEBM

Sackettらは、臨床的な問題を background question と foreground question の2つに分け整理している¹⁾(①)。前者は、「高血圧とはなぜ起こってくるのか」というような、当該疾患と5W1H (who, why, what, when, where, how) で定式化できる問題である。後者は特定の患者における個別の絞り込まれた問題で、PECO (Patient, Exposure, Comparison, Outcome) で定式化できる。EBMの実践においては後者で定式化されるような絞り込まれた個別の問題、foreground question に取り組む。しかしそのような取り組み方で道を踏み外さないために、実は背景の総論的な勉強、すなわち background question に対する取り組みが不可欠である。

そのような背景の勉強にはやはり教科書が最も役に立つ。しかし、背景だけしか得られないような情報源は結局役に立たない。また最新の知見については教科書からは漏れてしまっている。そこで登場したのが今回紹介するUpToDateである。

前回紹介したClinical Evidenceは、PECOで定式化できるような疑問については最高の情報源であるが、

総論的な背景の勉強にはほとんど役に立たない。それに対しUpToDateは、background question と foreground question のいずれにも対応できる情報源として、筆者自身が最も頻りに検索する情報源である。

UpToDateの概要

米国の主要学会が共同制作するCD-ROM版の教科書である。年3回の改訂を実現し、従来の教科書に対する、「最新の情報が盛り込まれない」という欠点を克服している。臨床の疑問に対し数秒で最新の答えが得られることを最大の特徴にしており、利用者の労力の軽減をめざすところはきわめてEBM的な情報源である。1992年にNephrology, Hypertension からスタートし、現在は小児を除くプライマリケア、外来の産婦人科領域を含め大部分の内科領域をカバーしている(②)。Neurology, Pediatrics, Oncology は現在準備中である。

収められている情報は薬物のデータベースも含め35,000ページに及び、さらに8,000を超える画像と約100,000のMEDLINEの抄録が収録されている。また患者への情報提供の文書も充実しているが、英語であ

background question

- 疾患について背景となる一般的な問題
- 当該疾患と5W1Hで定式化

foreground question

- 個々の患者についての個別の絞り込まれた問題
- PECOで定式化

① background question と foreground question

- Adult Primary Care
- Hypertension
- Nephrology
- Endocrinology
- Rheumatology
- Office Gynecology
- Pharmacology
- Pulmonary
- Hematology
- Hepatology
- Gastroenterology
- Infectious Disease

② UpToDate が現在カバーする領域

るため日本ではほとんど使えないのが残念である。この文書には関連の情報を得るためのウェブサイトのアドレスまで記載されており、自ら勉強したいと考えている英語ができる患者にとっては現時点でも最良の情報源かもしれない。

改訂にあたっては、270以上のジャーナルの追跡に、システマティックレビューやコンセンサスステートメント、エディターや著者の意見などを統合して行われる。4か月ごとの改訂で約30%の部分に改訂が加えられる。改訂の際に記述が変わったり付け加えられた部分は、本文中にアンダーラインが引かれているほか、Table of ContentsのWhat's newからその部分だけに絞ることができる。

参考文献の収集の網羅性やレベルに、Cochrane LibraryやClinical Evidenceのような厳密性はなく、不十分なエビデンスしかなく、コンセンサスが得られていない場合にはその旨が明記されるようになっている。しかし言い方を変えれば、ランダム化比較試験以外の臨床試験や観察研究も豊富に採用されており、なにがしかの記載が見つかるという意味では、それが一つの利点ともなっている。

UpToDateの検索

検索はきわめて単純である。思いつきの単語を入れれば関連のトピックがかなり広範囲に検索される。TIA (transient ischemic attack), SAH (subarachnoid hemorrhage) など頻用される省略語句も使える場合が多く、検索性はよい。そこからの絞り込みは、定義、治療、予防、診断、病態生理などに分けた絞り込みもできるほか、and検索で検索語句を追加していくこともできる。それぞれのトピックにたどり着いたあとも、左側には常にそのトピックの小項目が表示されており、ト

ピック内での別の項目への移動も容易である。

本文には、図表がふんだんに使用されており、クリックひとつでそれらが現れる。さらに参考文献の番号をクリックすると、その文献のMEDLINEの抄録も参照できる。また薬剤については薬剤名をクリックするとその薬剤情報が詳細に表示される。妊婦に使用の際の危険度の情報も含まれており、大変有用である。また紙媒体に出力する際もトピックごとで出力でき、従来の紙媒体の教科書から直接コピーをとって持ち歩くのに比べれば大変便利である。

UpToDateの購読法

南江堂洋書部から購入できるが、昨年の秋よりオンライン版²⁾も登場し、www.uptodate.comからも購入可能である(そのほうがかなり割安である)。今のところClinical Evidenceのような無料トライアルは昨年の秋に1か月あっただけで、現在はデモ版が体験できるのみである。デモ版ではUpToDateのすばらしさを体験するのは困難である。是非購入をお勧めしたい。何を隠そう筆者自身が圧倒的によく利用し、かつ役に立つ割合が高いのがこのUpToDateである。

文献

- 1) Sackett DL, et al: Evidence-based Medicine. How to practice and teach EBM 2nd ed. Churchill Livingstone, 2000, p15-18.
- 2) www.uptodate.com